

ARAKI AWARD FOR STUDENT

荒記賞(学生賞)

遠藤彰学生



■ 第2回受賞者(2015年度)

遠藤 彰

平成27年度 社会医学振興財団 荒記賞(学生賞)申請書

平成27年度 社会医学振興財団 荒記賞(学生賞)申請書

申請者	提出年月日			平成 28 年 1 月 15 日	
ふりがな	えんどう	あきら	生年月日	昭和(平成) 4 年 11 月 21 日	
氏名 (本欄は真筆で記入)	遠藤	彰	年齢	22 歳(平成27年4月1日現在)	
所属分野等	医学部医学科	内線	Eメール アドレス		
指導教員名 (教室名)	渋谷健司先生 西浦博先生 (国際保健政策学教室)	在籍学年	博士()年/修士()年/学部(5)年		
研究・教育・社会活動等の課題名	感染症疫学モデルを用いた新興および再興感染症の感染動態と介入効果の分析				
これまでの活動実績・研究実績(発表論文・学会発表、医学系研究科の教育補助等の教育活動、行政支援などの社会活動、などを記載。出版済みまたはin pressの筆頭著者論文等があれば特記する。ただし枠内に収めること)					
<p>(学会発表)</p> <p>2014年9月 Oxfordで開催された国際学会 Challenges in Malaria Research 2014にて、ポスター発表を行った。 題目: Akira Endo, Hiroshi Nishiura. Transmission dynamics of vivax malaria in Korea: effectiveness of anti-malarial chemoprophylaxis</p> <p>2015年8月 Atlantaで開催された国際学会 The International Conference on Emerging Infectious Diseases 2015にてポスター発表を行った。 題目: Akira Endo, Hiroshi Nishiura. A method for calculating the lifetime risk reduction of infection induced by newly implemented vaccination program</p> <p>(教育活動)</p> <p>2015年8月、統計数理研究所夏期大学院 2015年感染症数理モデル短期入門コースにて特別講義の講師を担当した。 題目: マラリアの数理モデルとその定量化</p> <p>(原稿論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> Endo A, Nishiura H, "Transmission dynamics of vivax malaria in the republic of Korea: Effectiveness of anti-malarial mass chemoprophylaxis." Journal of Theoretical Biology. 2015 Sep 7;380:499-505. Mizumoto K, Endo A, Chowell G, Miyamatsu Y, Saitoh M, Nishiura H, "Real-time characterization of risks of death associated with the Middle East respiratory syndrome (MERS) in the Republic of Korea, 2015." BMC Medicine. 2015;13:228. 					
社会医学への抱負と今後の活動計画					
<p>感染症は個人のリスクが他者の感染状態に依存するという意味で極めて社会的な疾患であり、人口レベルでの予防策が不可欠である。感染症による社会負担の最小化のためには、その感染動態を理解し、適切にモデル化することによって介入の効果を実証的に評価する必要がある。具体的には以下の点に着目した研究を行う。(i)各感染症の流行における実効再生産数、死亡率等のパラメータの経時的解析を行い、流行動態の定量的理解を進める。(ii)ワクチン政策や検疫等の流行対策についてその実効効果の評価や手法の最適化を行い、国及び地域レベルでの政策判断に資する。(iii)今後の流行に備えた新たな解析の手法や概念を考案し、提案する。</p> <p>日本のみならず世界的な社会医学の重要な課題である感染症に対する定量的な分析・評価を通して大規模流行の抑止および疾病負担の最小化を実現したい。</p>					
高等学校卒業以降の経歴					
2009年4月~2011年3月 城ノ内高等学校					
2011年4月~2013年3月 東京大学教養学部理科三類					
2013年4月~ 東京大学医学部医学科					

推薦文

遠藤 彰(えんどう あきら)氏は、東京大学教養学部理科三類から医学部医学科へ進学し、3年生であった2013年6月に、私が主任教授を務める東京大学医学系研究科国際保健政策学教室での研究を開始しました。国際感染症をはじめとする疫学分野やワクチンなどの医療政策分野に関心を持っており、当教室にて疫学、統計学、数理生物学を学び、2017年3月に医学科を修了、医師免許を取得する見込みです。

遠藤氏は、医学部での学業と並行して疫学理論や数理解析の技法に習熟し、特に感染症疫学の分野において非常に高い研究能力を獲得しております。韓国における三日熱マラリアの研究においては筆頭著者として論文執筆に取り組み、流行動態の解析と予防内服の流行抑制効果の評価を行いました。この研究は季節変動を持つ感染症の分析手法としてこれまでにない方法論を提示しており、昨年9月に国際英文雑誌に掲載されました。

更に、昨年大きな話題となった中東呼吸器症候群(MERS)流行に際しては研究チームの中核としてリーダーシップを発揮し、死亡リスク要因の解明をはじめとする研究業績に対し大きな貢献を果たしました。研究だけでなく教育面でも力を発揮しており、大学院生・若手研究者向けに行われた感染症ショートコースでは学部生ながら特別講師を務め、受講生より高い評価を得ています。非常に勤勉で意欲の高い学生であり、今後の活躍が期待されます。

遠藤氏は、海外出身の研究者が多い当教室においても積極的に交流を深め、円滑な人間関係を構築しています。英語で行われる当教室のディスカッションでの積極的な発言は国際社会で求められるアカデミックスキルとコミュニケーション能力の証左であるといえます。まさに、国際的に活躍する東京大学医学部生の理想的な姿があります。

こうした人物が今後の社会医学分野の発展に重要な貢献を果たすことを確信しております。以上の理由から、私は社会医学振興財団荒記賞候補として遠藤 彰氏をここに推薦いたします。

2016. 01. 15

東京大学医学系研究科国際保健政策学教室教授

渋谷 健司

推薦理由

平成28年2月5日

一般財団法人社会医学振興財団
理事長 荒記 俊一 殿

東京大学大学院医学系研究科長
宮 園 浩 平



平成27年度 荒記賞（学生賞）候補者の推薦について（送付）

拝啓、貴財団にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成27年度社会医学振興財団 荒記賞（学生賞）への申請につきましては、期間中に1名からの申請がありました。本研究科・学部において選考委員による選考を行い、下記の者を推薦させていただくことになりました。

つきましては、申請者の関係書類をお送りしますので、何卒よろしくお願いいたします。

敬具

記

医学部医学科 5年 遠藤 彰（えんどう あきら）

推薦理由

研究テーマとして、国際保健政策の重要課題である国際感染症を取り上げ、新しい分析手法等を用いた分析を試み、具体的な政策提言まで行うことを目指している。

医学部在学中の現在、すでに国際学会発表や英文誌への論文出版を行うなど、活動実績・研究実績共に顕著である。

今後の活動計画や社会医学への抱負も明快であることから、同賞にふさわしいと認められる。

■ THE SECOND AWARD WINNER (2015FY)

Akira Endo

CV and Past Activities

2008 April ~ 2011 March Johnouchi High School (Tokushima)

2011 April ~ 2013 March College of Arts and Sciences, The University of Tokyo

2013 April ~ School of Medicine, The University of Tokyo

Poster presentations

Akira Endo, Hiroshi Nishiura: "Transmission dynamics of vivax malaria in Korea: effectiveness of anti-malarial chemoprophylaxis.", Challenges in Malaria Research 2014, Oxford.

Akira Endo, Hiroshi Nishiura: "A method for calculating the lifetime risk reduction of infection induced by newly implemented vaccination program." The International Conference on Emerging Infectious Diseases 2015, Atlanta.

Lecture

"Quantification of Malaria by mathematical models.", Infectious Disease Modelling Short Course 2015, Tachikawa.

Research articles

• Endo A., Nishiura H., "Transmission dynamics of vivax malaria in the republic of Korea: Effectiveness of anti-malarial mass chemoprophylaxis." Journal of Theoretical Biology. 2015 Sep 7;380:499-505.

• Mizumoto K., Endo A., Chowell G., Miyamatsu Y., Saitoh M., Nishiura H., "Real-time characterization of risks of death associated with the Middle East respiratory syndrome (MERS) in the Republic of Korea, 2015." BMC Medicine. 2015;13:228.

• Nishiura H, Endo A, Saitoh M, Kinoshita R, Ueno R, Nakaoka S, Miyamatsu Y, Dong Y, Chowell G, Mizumoto K. "Identifying determinants of heterogeneous transmission dynamics of the Middle East respiratory syndrome(MERS) outbreak in the Republic of Korea, 2015: a retrospective epidemiological analysis." BMJ Open. 2016 Feb 23;6(2).